

令和3年度第一回 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地
地域連絡会議 議事概要

<日 時> 令和3年 8月30日(月) 10:00~11:30

<場 所> WEB会議

<出席者> 奄美市 市長、大和村 村長、宇検村 村長、瀬戸内町 町長、龍郷町 町長、
徳之島町 町長、天城町 町長、伊仙町 町長、国頭村 村長、大宜味村 村長、
東村 村長、竹富町 町長

(随行者、事務局関係者は省略)

<オブザーバー> 科学委員会 委員長、奄美群島広域事務組合 事務局長

<議 事> 1. 設置要綱の改定
2. 世界遺産委員会要請事項への対応方針(案)
3. 意見交換

<概 要>

議事1. 設置要綱の改定

- 設置要綱の改定について、事務局より説明を行った。
- 資料の通り、地域連絡会議及び地域部会の設置要綱が改定された。

議事2. 世界遺産委員会要請事項への対応方針(案)

- 世界遺産委員会の審議結果及び要請事項への対応方針(案)について、事務局より説明を行った。

<ご質問、ご意見等>

- 「河川再生」に関連して発言する。沖縄島北部においてはダムが多くあり、河口閉塞がみられる。河口閉塞により、水が澱んだり、蚊の発生源になることもあり、調査・対策が必要と考えている。川の水が汚れていると、素晴らしい自然を見に来た利用者は残念に思うだろう。(大宜味村)
→河口閉塞は大きな問題の一つと認識している。包括的河川再生戦略の検討において、河口閉塞も念頭におきながら対応していきたい。(環境省沖縄奄美自然環境事務所)
- 「森林管理」に関することとして、台風により樹木が電線に引っかかり停電が発生することが問題であり、伐採が必要になることもある。また、電線が数多くあるので景観としても望ましくない。現在、関係機関に無電柱化について要請しており、改善を図りたい。(大宜味村)
→要請事項としては緩衝地帯内の森林施業であると考えている。ご指摘のことについては状況をみながら、会議の中で検討していきたい。(鹿児島県)

議事3. 意見交換

- 科学委員会委員長より、保全・管理に係る展望についてご発言があった。

<科学委員会 委員長のご発言>

- 世界自然遺産登録は皆様の大変な努力の結果であり、共に喜びたい。2003年に「琉球諸島」が日本の世界自然遺産候補地となってから、環境省や林野庁は地域の方々とともに様々な課題解決に向け尽力してきた。今、私たちが認識すべきことは、世界遺産登録により、私たちのまわりにある自然が世界的な価値を有するものと認められたことであろう。日頃から目にし、ハイキングなどで楽しむ自然が、実は、世界的にみても価値あるものであると全世界が認識したのである。また、私達には、そのような価値ある自然を保全していく義務があるといえる。世界遺産委員会から保全・管理に関する4つの宿題が示されている。これらの宿題にどのように対応すべきか科学委員会としても意見交換を始めている。来年12月の締切までに良い回答ができるように努力したい。
- 1点質問がある。資料2-2においてはタスクフォースが科学委員会に助言依頼をし、科学委員会から科学的助言を与えるという構図になっている。一方、資料2-3においては「科学委員会」という文言が含まれていない。タスクフォースの議論を科学委員会はどの段階で認識し、どのようなコメントをすべきか明確にしてほしい。今回の資料のようなものをIUCN等へ提出することになるのであれば、科学委員会と連携していることも示すべきだろう。
→科学委員会の各回の議題として、タスクフォースの検討状況を説明し、ご助言をいただきたい。(環境省沖縄奄美自然環境事務所)
- 保全活動を進めるにあたって重要となるのは広報活動であると考えている。世界自然遺産という言葉は有名になったが、その内容はまだ熟知されていないように感じている。世界遺産とはどのようなものか、私たちの自然にはどのような価値があるのかについて、地域の方々に知っていただきたい。4つの島々でシンポジウムを開催するなど、世界自然遺産を広く知ってもらう機会を作りたいと環境省と話している。世界自然遺産の広報活動に尽力していきたい。
→地域の方々と科学委員会の委員が直接コミュニケーションをとることは重要であると環境省も考えており、そのような機会を設けることを検討している。(環境省沖縄奄美自然環境事務所)

- 各市町村長から、世界遺産の保全・管理に係る展望や期待についてのご発言が行われた。

<各市町村のご発言>

- 7月26日に世界自然遺産への登録が決定した。平成15年から長きにわたり、環境省、林野庁、鹿児島県、沖縄県、専門家の先生方、関係団体、地元市町村が一丸となって取り組んできた結果であり、まず、心から御礼申し上げたい。4地域の生物多様性が世界

の宝として評価され、4地域の住民はこれを誇りに思い、大変喜んでいる。奄美大島5市町村においては、7月26日を条例により「世界自然遺産登録の日」とすることを考えており、地域住民の意識醸成を図りたい。関係12市町村の連携をさらに密にして、4つの勧告に取り組むとともに、官民一体となって、自然の保護・継承、啓発を進めていきたいと考えている。生物多様性、環境文化型の自然遺産を守っていく努力をしていきたい。改めて、その責任の重さも実感している。今後も、専門家の先生方や鹿児島県、関係者のご指導・ご協力を賜りたい。(奄美市)

- 関係者・関係機関がそれぞれの立場で様々な検討を進め、世界遺産登録に至ったことにお喜び申し上げます。大和村においては、4つの課題のうち、特に観光管理やロードキル対策について重点的に進めるべく、現在、関係機関とともに検討している。奄美大島においても持続可能な観光管理をしなければならないと考えており、大和村ではアマミノクロウサギ研究飼育施設の整備を進めている。ここでは、傷病個体の保護と生体展示を行い、来島者がアマミノクロウサギを観察するとともに、ナイトツアー等の利用ルールも事前説明できればと考えている。野生生物保護センターや今後整備される世界遺産センターなどと連携を図りながら、適正な観光管理に努めたい。また、ロードキルは村内でも多発している状況にある。環境省・村・道路管理者・工事関係者が連携し、道路への侵入防止ネットや減速帯の設置など、具体的な対策の検討を進めている。関係市町村との情報共有・連携を図ることが重要であり、地域連絡会議の議論を踏まえながら、大和村の取組を進めたい。今後ともご協力・ご指導を賜りたい。(大和村)
- 宇検村から3点報告する。一つめは、環境省・大和村・宇検村で、湯湾岳の保全及び適正な利用ルールづくりに取り組んでいる。これまでも国立公園の適正利用や希少種保護の普及啓発、希少種の盗掘・盗採防止を目的として様々な策を講じてきたが、これまで以上に環境保全管理を徹底していく。また、入込客の増加に伴い遭難事故も増えると予想されるので、危機管理等の観点からも重要と考えている。世界に誇る自然環境を堪能してもらうため、自然環境を守り伝えるため、そして、地域住民の生活を守るため、オーバーツーリズムにならないように利用ルールを作り、持続可能な観光を目指して取り組んでいく。二つめとして、宇検村はかつて林業が盛んで、製紙用チップを搬出していた。現在は木質バイオマスエネルギーの燃料用に、伐採計画に基づく小規模林業を行っており、これまで以上に保全と活用を徹底していきたい。三つめは、子どもから大人まで世界自然遺産を学び、考え、発信する環境教育を充実していきたい。「やけうちっ子環境学習世界自然遺産博士講座」では、身近な自然や文化について学習する全9回の講座を予定している。生態系、生物多様性、民俗、文化など様々な切り口から、「見る」「触る」「聞く」という体験を重視して学び、最終回には子供たちが学んだことを発表し思いを発信できるようにしたい。また、配信などにより、島の出身者等にも課題解決の方法を探っていただくなど、交流人口や関係人口の拡大にもつながりたい。今後とも、関係機関・関係市町村の皆様のご協力・ご指導をお願いします。(宇検村)

- 奄美大島、徳之島、沖縄島北部、西表島の自然環境が世界の宝として評価されたことを嬉しく思うとともに、皆様と共に喜びたい。また、自然環境や地域の文化を次世代へ引き継ぐと同時に、地域住民の暮らしも守っていく責任の重さも感じている。IUCN の要請事項において、観光客の訪問レベルについて指摘があった。森のオーバーツーリズムを発生させないためには、入込客の分散が必要である。そのため、瀬戸内町では海も観光資源として活用していく。森、川、海、希少野生動植物を保全し、文化や人々の暮らしを大切にしながら、地域住民が世界自然遺産に登録されたことの意義を深く認識できる啓発活動を行い、意識向上を図るべく関係者で取り組んでいく必要がある。また、アマミノクロウサギ等のロードキル対策を進めるため、他の市町村と連携してガバメントクラウドファンディングで資金を集めているが、その資金だけでは十分な対策は難しい。環境省や国土交通省、鹿児島県と連携し、ロードキル対策に取り組んでいく必要があると考える。関係者の皆様との意見交換の中で、対策への財源確保についても協議しながら進めていきたい。(瀬戸内町)
- 世界遺産登録は誠におめでたいことであり、延期勧告や世界遺産委員会の延期など、紆余曲折あった大変な長旅だったように感じている。特に、延期勧告の衝撃は大きく、関係機関が密に連携をとり、課題解決に努めてきた。皆様のご協力・ご支援のおかげであり、改めて感謝申し上げます。今後、これまで以上に保全と利用のバランスをとることが重要だと考える。これは、アクセルとブレーキを同時に踏むようなもので、地元行政としては常に気を配らなければならないと感じる。引き続き、関係の皆様と協力しながら、世界自然遺産にふさわしい、持続可能な地域づくりに取り組んでいきたい。(龍郷町)
- 7月26日に世界遺産登録されたことについて、環境省、鹿児島県はじめ、関係者に深く感謝申し上げます。要請事項の4項目のうち、特に観光管理とロードキルが徳之島町に関係すると考えている。徳之島は遺産地域と人の居住地域がとても近く、ロードキルは大きな課題と考えており、住民の協力を得るためにも、住民がこの課題の解決に向けて話し合う場を作らないといけない。観光管理については、現在は森が主要ルートになっているものの、海も観光に適していると考えており、今後の観光のあり方として様々なメニューが必要と感じている。また、徳之島町では、子どもたちの環境教育に取り組もうとしており、人材育成にもつなげたい。環境教育と合わせ、以前より取り組んできたグローバルな人材育成として多種多様な価値観を理解できる体験を実施したい。続いて、世界自然遺産は12市町村だが、実は奄美群島も12市町村ある。私としては、7月26日は、奄美群島全域、そして沖縄も含め、観光交流推進の日にできればと考えている。今後も、地域それぞれが一致団結した取り組みができるよう頑張っていきたいので、環境省、県の皆様にはご指導をお願いしたい。そして、今回の要請事項の全てについて、町として重点項目として取り組んでいくことを約束する。なお、要請事項のタスクフォースの重要性を感じており、2022年12月にレポートを提出した後も実際に実行しているかについて確認していかないといけないだろう。(徳之島町)

- 世界自然遺産登録が決定し、世界中の多くの方々はこの遺産価値を紹介できることを大変嬉しく、光栄に思っている。登録がゴールではなくスタートであり、この素晴らしい自然を、次の世代へ変わることなく引き継ぐ使命があると考えている。天城町では、令和元年度から、町内の児童・生徒を中心に「あまぎ学」をたちあげた。徳之島の世界的な価値について理解を深め、郷土に対する誇りを育むことを目的とし、世界遺産や自然環境に関して体系的に学習している。自然環境の魅力を知り、体験することで、自然環境全体に対する意識向上を図ることができると考えている。先ほど話のあった島ごとのシンポジウムについて、ぜひ科学委員会の委員の方々、国・県と一緒に開催し、島民の意識醸成につなげたい。4つの課題については、子供会（保護者を含め）を中心に、徳之島のロードキル多発箇所に防護ネットや啓発看板の設置を予定している。観光管理については、徳之島には遺産地域以外でも貴重な自然を見ることができ、海や生活・文化もある。遺産地域への負荷を低減するためにも、これまで整備してきた観光地の利用を促進できればと考えている。一方、人材が不足しているので、エコツアーガイドの育成に力を入れたい。さらに、観光客はもちろん、島民も希少動植物をみるため、夜間の林道・山道を利用することが増えると予想される。利用ルール等を検討し周知も図っていききたい。これからも島民の意識醸成及び適切な観光管理により、遺産価値を保ち、徳之島を含む4つの島の活性化につなげていければと思う。（天城町）
- この20年間、世界遺産登録に向け大変な努力をされた全ての方々に改めて感謝申し上げる。伊仙町の遺産地域はわずかなエリアであるが、犬田布岬などの海岸等が国立公園になっている。また、伊仙町にはカルスト台地を川が削ったV字谷があり、希少な動植物が生息している。世界遺産とともに、国立公園の動植物を保護していくことも考えていきたい。ここは環境文化型の国立公園、自然遺産であり、この島々の自然が守った文化であり、反対に、島々の持つ文化が自然を守ってきたという考え方もできる。観光利用に関しても、色々なおもてなしの中で各島々の文化がとても大事になると思う。島の出身者も、世界自然遺産の島という誇りをもって都会でも自信をもって生きていけるだろう。また、外国では長距離トレイルが盛んであり、奄美群島と、沖縄島北部や西表島までのびる長距離トレイルを将来的に作れると良いかもしれない。さらに、環境省、県、全ての自治体に関わりシンポジウムなどで協力していくことが重要だろう。我々は、4つの宿題を守りつつ、次の世代にどのような価値観を生みだしていけるか、次世代のために果たすべき役割をしっかりと考えたい。徳之島では、自然保護のため、盗掘防止のため、ロードキル防止のため、NPO法人虹の会が頑張っているのも、官民一体となって取組を進めていきたい。（伊仙町）
- 世界自然遺産登録に長年尽力した、環境省、林野庁、両県、専門家の皆様に御礼申し上げます。国頭村にはヤンバルクイナなどのロードキル、外来種の侵入、動植物の密猟、ノネコ・野犬対策、不法投棄など、他の地域と共通する課題がある。世界遺産委員会の要請事項にもあったヤンバルクイナのロードキルが、8月26日現在で26件（死亡事故21

件)と増加している。国頭村においても、様々な課題の解決に向け、環境省、沖縄県、関係機関と連携し、看板の設置、パトロール、林道の夜間通行規制などの対策を行っている。現在は新型コロナの影響で観光客は少ないものの、世界自然遺産登録に伴って、観光客が増え、オーバーツーリズムとなることも懸念される。また、世界に認められたその価値を認識し、地域の意識向上を図るため、環境省の協力を得ながら、役場職員や小中学校での勉強会や講演会を行っており、継続していきたい。今後、様々な課題に対応し、自然環境を保全・管理していくためには、人材や予算等の体制が重要であると認識しており、関係機関や専門家のご協力・ご指導をお願いしたい。課題等の情報共有を行いながら、持続的な地域発展につなげられるよう取り組んでいきたい。(国頭村)

- 大宜味村では、30年前から野生生物、特にチョウ類の調査を小学生が継続しており、様々な場で発表・報告を行い、表彰も受けてきた。子どもたちが環境問題にしっかり取り組んでおり、村民も子どもたちから刺激を受け、徐々に環境問題に関心をもつようになってきた。今回、世界遺産に指定されたやんばる3村の森林の中には、生物多様性、とても貴重な動植物がいる。現在、これらの動植物の盗難、盗掘がみられるため、その対策として県や環境省と一体となって夜間の林道閉鎖などを行っている。続いて、来年から、村として、河口閉塞を改善するための基本計画を策定し、整備していこうと考えている。農家の方々にもご協力いただき、赤土流出対策もしていきたい。また、以前より、民間企業の協力を得ながら、地域住民も一緒に、外来種であるツルヒヨドリの除去を進めている。ツルヒヨドリは沖縄県全体に広がっており、県全体で対策する必要があると考えている。人材づくりも大きな課題であり、大宜味村にある辺土名高校の環境課では子どもたちが環境について調査をしたり、発表したり、頑張っている。観光については、3村の観光協会でルール作りを進めており、大宜味村も観光の村として一体的に取り組んでいきたい。今後もお互いに情報交換をしながら、素晴らしい世界遺産地域として発展していけるよう頑張っていきたい。最後に、沖永良部～与論～塩屋漁港を航路とする高速旅客船の準備を進めている。将来的に奄美群島全体と沖縄島北部が高速旅客船で結ばれると、より観光振興につながると思うのでご協力をお願いする。(大宜味村)
- 世界自然遺産登録に向けて尽力した環境省、林野庁、沖縄県、鹿児島県、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。やんばるの森の豊かな自然、生物多様性が世界に認められたと大変喜んでいる。一方で、これまで以上に自然保護に取り組む必要がある。観光客が増えることで生じる環境負荷への対策も検討していかなければならない。東村では、慶佐次川流域のカヌー体験を中心に、地域資源を活かしたエコツーリズム、体験型観光が盛んに行われており、利用・保全のルール作りについて地域や事業者と一緒に取り組んでいきたい。また、東村では、国の特別天然記念物ノグチゲラについて、平成5年に村の鳥に指定、平成22年にノグチゲラ保護条例を制定し、保護区設定、保護監視員の配置を行い、ノグチゲラの保護に取り組んできた。今後も保護区の拡大などを行い、ノグ

チゲラの保護に積極的に取り組んでいきたい。先人たちが守り育んできた豊かな自然を守り、地域の活性化につなげるため、適切な維持管理と環境保全を図り、次世代に受け継いでいけるよう、取り組んでいきたい。各地域の皆様をはじめ、環境省、林野庁、沖縄県、鹿児島県の皆様にも引き続きご協力をお願いする。(東村)

- 多くの方々のご理解・ご協力、特に林野庁、環境省に多くの力添えをいただいたことに感謝申し上げます。「今からはじまるんだ」「今からが大事なんだ」という思いをお互いに共有し、この世界自然遺産、それぞれの素晴らしい遺産を後世に伝えていくことが我々に与えられた責務であると考えている。皆様と一緒に、ふるさとの話ができることに喜びを感じている。西表島は他の3地域と少し距離があるが、独特の文化があり、その文化を守るために海や山から大きな恵みをいただいていた。このようなことが世界自然遺産として認められたらと思うと、ふるさとの話をいつでもできる体制をつくっていくことが自然を守り継承していくことであると感じる。要請事項にも「特に西表島」という文言があるし、イリオモテヤマネコは西表島にしかいないため、これからも国や県の役割は大きなものがあると思っている。また、西表島では、脱炭素社会に向けた取組を進めており、このことも自然を守るためには大事なことだと考えている。脱炭素社会を目指すため、西表島の自動車をすべて電気自動車へのきりかえ、特にレンタカーは全て電気自動車にしていきたい。また、西表島の観光入域客数を現在の約半分である15万人とするくらいの気持ちで、大事な遺産を守るために、また、コロナ禍で徹底的に人流抑制を行うために、法律制定による抑制をしないと結果が出ないと思っている。素晴らしい自然を後世に継承していくために重要な時期であること、そして、その責任の重大さを感じている。皆様と連携を図りながら、日本の宝、島々の宝、ふるさとの宝を皆で守り、後世に伝えていきたい。(竹富町)

以上